

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900246		
法人名	医療法人豊和会		
事業所名	グループホーム 第2やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町鶯方2555-9		
自己評価作成日	令和元年 5月 23日	評価結果市町提出日	令和元年8月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Ji_gvosyoCd=2472900246-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元年 7月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院が併設されているため医師が24時間常駐している。また、医療連携の看護師とは24時間連絡が取れる体制になっている。利用者様の健康管理は主治医が訪問診察を行い、きめ細かい指示のもと介護を行っている。豊和病院への通院の介助も行っている。職員は、利用者様の笑顔の場がたくさん見られるよう、利用者様主体の介護を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆったりとした雰囲気の中で、残存能力の維持と喪失した能力の回復を目標に支援を続けている。段々高齢化が進んでいいるが、職員は利用者個々に自分ができる事を毎日続けられる様に見守っている。耳が遠く会話は聞こえなくても、今までの様に家族と一緒に居る事、大好きだった好物をみんなと一緒に食べ、ゆっくりおしゃべりをして自由にゆったりと普段の私らしく過ごせる様に、職員は日頃から努力支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームは利用者様が『私らしく暮らす家』である事を常に忘れず、これまでの人生を送ってきた地域の中で、楽しく豊かに暮らせる様なサービスの実践を心がけている。	事務所入り口に理念を掲示し、今まで暮らしてきた自分の家と同じように過ごせるように、利用者本位を基本に実践の場で支援し職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の事務部門が自治会に入会しているの、そこから情報を収集したり、運営推進会議のメンバーである自治会関係者から情報を収集して行事等に参加し、地域との交流に努めている。	自治会に入会しており年1回の清掃活動に参加したり、小学校の運動会・地域の祭りに利用者と見学に行っている。高校生の職場実習を受け入れ、事業所で開設した認知症カフェに自治会長が16名の参加者を参集してくれ日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	経験豊かな職員が地域包括ケア会議に参加し、認知症の方との関わり方や連携について意見を出して貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議の中で参加した行事や活動状況、サービス評価結果などを報告し、サービス向上にむけたご意見や問題解決のアイデアなどを頂いて運営に活かしている。	市職員・地域包括センター・自治会長・老人会会長・民生委員・家族等が参加し、行事・職員の研修報告を行ない、偶数月に年6回行なっている。意見を参考に夜間想定訓練を実施する等、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所介護総合相談支援課より1名参加頂き、ケアサービスの取り組みについて報告すると共に、法的な事の相談や手続きについてアドバイスを頂いたりしている。	事故報告書・介護関係の書類届け等、また、サービス事業者連絡協議会に出席し情報交換をしている。空き室の問い合わせがあるが、運営推進会議での意見交換が主になっており、そこでの協力関係を築く様に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の為の講習に参加する事で、正しい理解を深め、拘束廃止に向け前向きに取り組んでいる。	外部研修会に年1回、出席し拘束をしないテーマを職員間で共有している。	拘束の対象者がいる・いないかではなく、日頃からいろいろな拘束をしないケアの事例の対策方法を職員と考える機会を作り、会議記録を作成する事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に積極的に参加し、高齢者虐待防止について学び、職員全員で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の冊子を取り寄せ、啓発に努めると共に、関連の研修などに参加し活用できる様学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員により十分説明を行い、同意を得たうえで契約頂いている。〈入所前の施設の見学も常時可能〉		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の見やすい場所に相談窓口の掲示やご意見箱を設置すると共に、重要事項説明書にも記載してご意見を頂ける様努めている。	利用者同士の会話から、また、テレビを見て好物があると意見があり、すぐ反映させている。入浴時・朝の利用者との会話・声掛けで聞き取り、家族からの面会時・電話連絡時・便り等を出し把握に努め反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや申し送りノートを活用して様々な意見や提案を汲み取るよう努めている。	支援中に気付いた時や休憩時間時、携帯電話等でやり取りをすることが多く、管理者は日頃から職員の気持ちをとり込み職員との密接な関係作りが確立されており、意見や提案を聞く機会があり、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や資格修得状態など、人事考課に反映し各自がやりがいを持って就労できる様、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得など、様々な講習会の情報を提供し、積極的に参加する環境を整えとと共に、受講費の補助や勤務体系などサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護サービス施設が加入する連絡協議会に参加し、職員同士の相互交流を図ると共に、最新情報の収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面接で、いろいろな項目についてゆっくり話を伺う機会を設け、ご本人の要望にしっかり耳を傾け、その情報は職員全員が共有し、より良いサービスの提供に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族からゆっくり話を伺う時間を持ち、困っている事、不安や要望を汲み取り、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	きめ細かくアセスメントを行い、必要なサービスを見極め提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや後片付けなど、できる事を手伝っていただいたり、理念にあるように、ゆったり、楽しく、一緒に豊かに暮らす家族のような関係であるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に見えた時には、近況を報告したり、電話など積極的にコミュニケーションを取り、利用者様をご家族と共に支えている意識を持ってサービスにあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人などが面会に見えた際は、ゆっくりして頂けるよう椅子やお茶をお出ししている。	知人が訪ねてきたりお墓参りに出掛けたり、かかりつけ医へ受診したりする利用者もいる。特に訪ねてくれる知人・友人には手厚く応対し、また、来訪を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファーに座れる方、車椅子の方など、座る位置を工夫し誰とでも会話でき、より良い関係が続くよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転所された方はお見舞いに伺ったり、ご家族にも気軽に遊びに来て下さるよう声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から要望や『こうしたい』と希望する声が聞かれた時は、出来るだけ意向に沿うよう努め、また声にならない思いもたくさんあるので、さり気ないサインを見逃さず、叶えられるよう努力している。	職員と利用者が一対一になる入浴時や、居室での会話、利用者同士の会話の傾聴、表情・行動・しぐさ等を察知している。また、朝に利用者との声掛け・会話時間を大切に、個別の気づきノートに把握した希望・意向を記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、これまでの生活歴などをゆっくり聞き、内容をまとめ、職員でその情報を共有し、日々のサービスに生かしている。また日常会話から得た情報なども介護記録に書き残し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の心身の状態、出来る事、出来ない事をシートに拾い出し、それを基にケアプランを作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成した介護計画は3か月に一度モニタリングを行い、本人の希望や心身の状態、家族の希望を取り入れ作成している。	個別気づきノートや出来る事、出来ない事シートを参考に業務推進会議で話し合い、モニタリングを3ヶ月毎に行わない計画の見直しを行なっている。また、身体状況に応じてその都度、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとの介護記録があり、食事、バイタル、排泄の様子、気付いたこと、主治医の指示など細かく記録し、職員は出勤するとすぐ眼を通し、情報の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院に併設しているため、月に2回、主治医による訪問診察を行い、日常のきめ細かい健康管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で地域資源の情報を収集したり、利用者様の生活が豊かになるよう、医療、行政、などと協働し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在利用者様9名のうち8名が併設病院の医師が主治医であるが、希望に応じ他の医療機関の受診も可能である。訪問歯科も利用できる。	病院併設の為、24時間対応の協力医が殆どであり、協力医からは月2回の定期訪問診療がある。かかりつけ医に受診する方が1名いるが、家族に情報提供票を渡し、協力医専門外含めて家族に受診を依頼しており、結果報告はその都度、情報交換に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者(看護師)や医療連携の看護師と介護記録を共有し、利用者様の健康管理についてアドバイス頂いたりしている。また、24時間連絡が取れる体制であり、緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には相談員がきめ細かく対応している。また、日頃から地域の病院との連携に努め、情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合のグループホームの指針について文書で説明を行い、同意を得て署名、捺印頂いている。終末期には再度、主治医、家族、介護職員の3者で話し合い看取りに取り組んでいる。	入居契約時、指針に基づき家族に説明、意向を聞き同意書を交わしている。その状態に陥った場合には再度、主治医・家族・職員と対応方針を話し合い再同意書を交わしチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてマニュアルを作成し、初期対応や連絡方法など各自周知している。定期的に消防署の救命講習に参加し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設病院との合同避難訓練及び、グループホーム単独で、夜間想定避難訓練を行い非常時に備えている。運営推進会議の参加者にも訓練の様子を見て頂き、協力をお願いしている。	年2回、併設病院との合同で火災・地震想定で、通報・消火・避難訓練を行なっている。また、ホーム単独で夜間想定で避難訓練を行ない、地域の方も見学に来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お世話させて頂くという気持ちを忘れず、人の尊厳を大切にしたいケアを心がけている。特に排泄の介助などプライバシーに配慮した介助や言葉かけを心掛けている。	食堂にいつも笑顔を忘れずにと柱に掲示し、特に羞恥心やプライバシーを配慮した声掛けや介助に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中に利用者様の本当の気持ちが表れる時があるので、その瞬間を見逃さないよう大切にしている。また想いを引き出せるような声かけやゆとりのある時間の過ごし方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには特に決まったタイムスケジュールはないので、利用者様の気持ちや体調を尊重し、楽しく1日を過ごして頂けるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や着替えなど、出来るだけご自身で、お好みに合わせて出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いや軟らかさの形状など利用者様それぞれに合わせて、個々に対応している。片付けなど、無理のない範囲で手伝って頂いている。	献立・食材の調達から調理まで全て職員で賄っている。台所からは調理の匂いが漂い、より一層楽しみな食事となっている。行事食(雛祭り・七夕・土用の丑・おせち等)・おやつを含め用意され、嫌いな物があれば別途個々に合わせ対応をしたり、出前をとることもある。また、利用者は食器拭き等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食介護記録に残し、栄養状態など把握に努めている。水分摂取は積極的に声を掛け促すようにしており、利用者様ごとにペットボトルでお茶を持って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけご自身で頂くよう声を掛け、介助が必要な方は、出来ない部分を職員が手伝うようにしている。また、歯科医師による歯科検診もできる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄状態を記録してリズムを把握し、プライバシーに配慮した声のかけ方や誘導を心掛けている。	車椅子の方や尿意を訴える方が多い中、トイレの場所も明確に掲示しトイレでの排泄支援を行なっている。ポータブルトイレを日中使用する方もいるが、排泄支援チェック表で把握・定期的にトイレ誘導をする等個別支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防効果のある食材やメニューを工夫し、出来るだけ薬に頼らず排泄できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	風呂は毎日準備しており、各利用者様は週2～3回のペースで入浴して頂いている。入浴を拒否される方もあるが無理強いせず、誘い方を工夫するなどして、楽しく入浴できるように心掛けている。	基本的には週3回の入浴支援を行なっているが、希望があればいつでも入浴出来る様に準備はしている。入浴を拒否する方は無理強いせず本人に任せ、足浴・清拭を行ったり、入浴方法を考え支援している。入浴後はリビングでテレビを見たり、横になったりして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は常に清潔を心掛け、いつでもゆっくり休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、その都度間違いないか確認して手渡しで服用して頂いている。また、体調の変化などは主治医に報告し、調整して頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生会には食べたいものや欲しい物など伺いプレゼントしたり、お花見やクリスマスなど四季折々に楽しみごとを企画するようにしている。また、できる方には、ホーム内の家事などを手伝って頂き、職員は感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や祭り見物など、気候や利用者様の体調を配慮しつつ、出掛けるようにしている。	毎月の行事計画を立て、花見(梅・桜・つつじ・紫陽花・ルビナス)、小学校運動会や地域の祭りに見学に出掛けたり、認知症カフェにも行っている。プランターでは花・野菜を作り状況確認や収穫に、出来るだけ外出の機会を多く支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は『お預り金』として一定金額をグループホームで管理しており、利用者様のご希望に応じて必要な物を購入し支援している。お預り金の収支は定期的に家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じ事務所の電話を使って頂いている。毎年、年賀状もご自身で書いて頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を保つよう毎日掃除を行い、利用者様が快適に過ごせるよう心掛けている。リビングには季節の花を飾ったり、季節に応じた壁飾りを作ったり、季節を感じて頂けるような空間作りを心掛けている。	居間兼食堂は大変広く、プランターの花や職員が持参する季節の花が飾られ、開放感がある台所からは食欲をそそる調理中の音や匂いが感じられる。壁には行事の写真や利用者の作品、季節毎の作品が飾られ、一日ゆったりと自由に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士、ゆっくりくつろげるよう、座る位置など配慮している。自分の席だと判るよう、個々の座布団を置くなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご自身が過ごしやすいよう、お好みの家具など持ってきて頂いている。また、室内で転倒や事故のないよう、職員がさり気なく整頓させて頂いている。	利用者好みのベッドや衣類等を収納するキャビネット・テレビ・家族の写真が持ち込まれ、それぞれが落ち着いて過ごせる様に掃除が行き届き すっきりとした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどのサインは大きく掲示して、認識しやすいよう工夫している。動線にはほとんど手すりがあり、自立して移動できるよう支援している。		